

# 琉球大学学術リポジトリ

## 農家便り100号によせて

メタデータ	言語: 出版者: 琉球大学農家政学部 公開日: 2011-07-07 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/20.500.12000/21107">http://hdl.handle.net/20.500.12000/21107</a>

# 農家便り 100号によせて

1955年12月に、この小冊子を創刊して以来、一回の休みもなく、8年余の年月をかきわて、ここに100号を迎えることができました。

その間、われわれ関係者は、誌上を通じて、専ら衣食住の改善に、また農業技術の啓培に尽力してきました。

省みますと、この8年の間に、製糖工場の新設と増設がありました。またパイン栽培面積の増加と、これに伴う加工場の増設もあって、今年の缶詰量は100万ケースに近づいています。

然るに、貿易自由化の波や、余剰農産物の輸入によって、或いは電力の普及や物価高による消費面の追打ちを通じて、農民の生活は、大幅にゆさぶられています。

呼応せねばならない、農業上の改革は、必ずしもこれらに歩調を合せて居らないが、だからと申して、大平の夢をつぎけているわけではありません。

例へば、研究機関の面では、農試場の規模の拡大とか、琉大農試の新設がなされ、また政府によって農業センターの計画もすすめられています。

地或によっては、農地の拡張や農道の開さくがあり、ボーリングによる農地澁がすすめられています。

それに畜産では、鶏や豚や牛の優良品種が導入されて飼育規模も、しだいに大きくなっています。全島緑化運動は林業改善に拍車をかけています。

近くは、農業基本問題調査会の設置もあって、農業憲法とも申すべき農業基本法の実現を見るのも、近いことでしょう。これを政府が、強気に推進すれば、適正規模の農家が育成されるのは勿論、他産業と収入の格差が少なくなり、農家の社会的位置の安定も保証されることでしょう。

かくて農業者の前進の足おとがきこえてくるようです。

わが「琉大農家便り」は、従来も、多方面の取材を忘れていませんが、今後は一層活眼をひらいて、前進をつずける農村生活や農業改新の指針となるかくごで居ます。各方面の一層の御援助をお願いいたします。 (関係者一同)

## 普及事業のあしあと

本学部の普及事業は1955年10月に創設され、ここで8年半の才月を迎えたことになります。それは琉球大学の建学の理念に基づき、学内における応用可能な農畜林業及び家政の分野の科学的研究の成果を全琉の人々に広く普及するという一つの校外教育であります。

近くは都市近郊の農村から遠くは宮古、八重山の僻地まで農村開発のトレードマークの下に普及活動は活発に展開されてきました。その間、特に農村人を して新しい技術を修得せしめ、また自主的農民を育成するために凡ゆる効果的な普及方法が用いられてきました。即ち展示会、講習会、映写会、普及冊子、新聞、ラジオ、テレビなど。

この度、農家便り第100号を記念して本学部普及活動の過去と現在を記録写真で紹介すると共に、本誌の愛読者の便宜を図って 創刊号以来のタイトル目録を作ることにしました。 (古謝瑞幸)



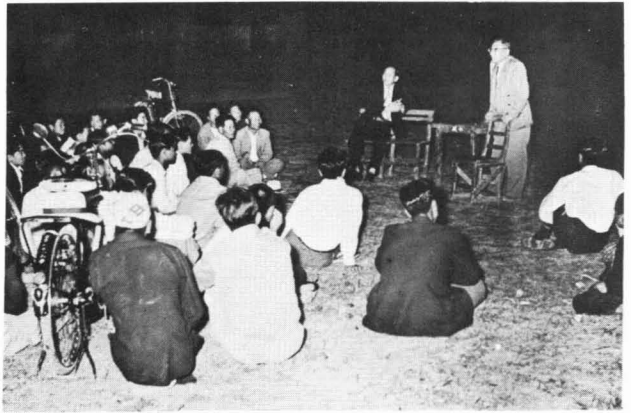
トミシガン州立大学派遣顧問団員のバーナード・D・ターン氏は琉大普及事業創設の尽力者である 写真は学部の乳牛試験室を見る同氏(中) 1956年3月



生活改善普及活動の草分け 台所をあずかる主婦のための料理講習会が家政学科職員によって開南小学校で開かれた 1956年2月



農村の主婦が最も関心をもつミソ作り講習会が初めて1956年3月、大里村役所で行なわれた 講師は宮里典信助教授



お互いの問題を持ち寄り ひざをまじえて懇談会 みんなに都合のいい夜間を利用して開かれた 1956年3月宮古城辺小学校で 語る人は島袋俊一教授